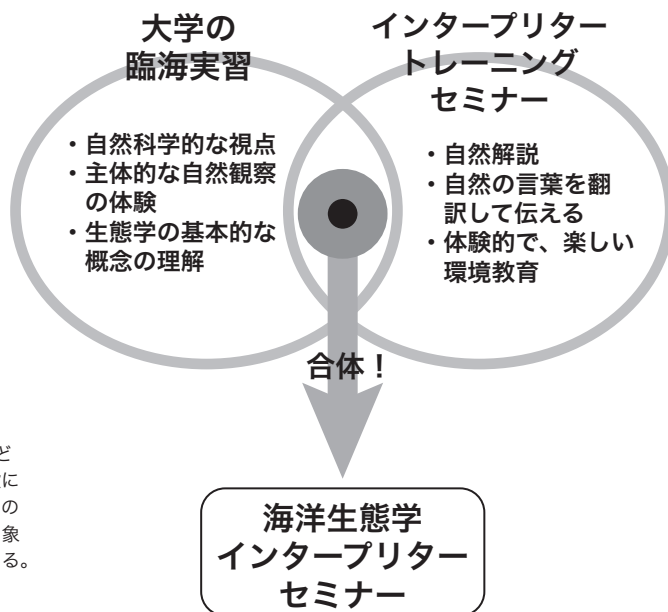


海のインタープリターになろう

海洋生態学をベースにしたインタープリテーション（自然解説）を学ぶ新しいコンセプトのセミナーです。



※キーワード解説:

「臨海実習」：自然系、水産系の大学などで行われる授業の一つで、海浜の施設に合宿して行われる実習を言う。長時間の観察や野外調査など、学生にとって印象深く、学びの多い学習機会となっている。

※キーワード解説:

「インタープリター」：Interpreter：自然解説者。自らの感性を媒介して自然のメッセージを伝える。自然語の通訳。

「インタープリテーション」：Interpretation：自然解説。単なる情報の提供でなく、直接体験や教材を通し事物や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的とした教育活動

日時：2007年8月10日（金）～14日（火） 4泊5日

場所：千葉県鴨川市・千葉大学臨海実験所

主催：インタープリテーション協会

共催：自然教育研究センター

後援：東邦大学理学部（予定）

企画・プログラム開発：

自然教育研究センター

東邦大学理学部海洋生物学研究室

対象者：高校卒業以上。海の環境教育や自然解説に関心のある方。特別な知識や経験などは特に問いません。

定員：20名（定員に達し次第締切）

参加費：6万円（宿泊、食事、教材、施設利用、保険等を含む） ※予定

※交通費は参加費に含まれません。

主な内容（予定）：

- ・海洋生態学実習。海の自然の観察・調査。
- ・基礎的な生態学の概念についてのレクチャー
- ・インタープリテーションのプログラム体験
- ・インタープリテーション概論
- ・プログラム作成実習

お問い合わせ・お申し込み

インタープリテーション協会（担当：古瀬）

E-mail：marine@interpreter.ne.jp

電話：042-528-6595

190-0022

東京都立川市錦町2-1-22 自然教育研究センター内



講師プロフィール

風呂田利夫 ふるた・としお

東邦大学理学部教授（海洋生物学研究室所属）。理学博士。東邦大学理学部で30年間、学生の臨海実習を担当し、海岸生物の生態を教育。また学生や研究者を対象としたスクーバダイビング指導も先駆的に実践。主な研究テーマとしては、東京湾生物の個体群維持機構、干潟生物の生態学的研究など。

近年は、干潟の生物の住民参加型の調査研究を企画実施中。



古瀬浩史 ふるせ・こうじ

自然教育研究センター主任研究員。奥多摩、八丈島など数カ所の自然公園施設（ビジターセンター等）の勤務を経て、現在は環境教育の指導者やインタープリターのトレーナーとして活動。主催事業であるインタープリタートレーニングセミナーを始め、環境省や国土交通省、都道府県などが主催する各種セミナーの講師を多数担当。最近はサンゴ礁保全のための教育活動にも取り組む。NPO法人JCUE副会長や、海辺の環境教育フォーラム事務局など海域の活動も多数。

